

第2学年A組 学級活動指導案

日時：平成26年10月6日（月）第5校時

場所：陸前高田市立第一中学校2年A組

（男子13名 女子14名 計27名）

指導者：教諭 佐々木 広一

1 題材 「理想の学校に近づくために、後期生徒会の柱となる活動を考えよう。」

（1） 学級や学校の生活づくり ウ 学校における多様な集団生活の向上

2 題材について

（1） 生徒の実態

学級の雰囲気は明るく男女間の仲が良い。学級の話合い活動では、自分の考えを積極的に発表する男子に対し、女子はしっかりとした考え方をしているものの、自分の意見を積極的に発表することが少ない。班活動や係活動においては、自分の役割を理解し、責任を持って取り組む姿が多く見られる一方で、学校の一員として、生徒会活動の目的を理解し、学校生活の向上のために生徒会活動に自主的に参画している生徒は少ない。これから後期生徒会活動のリーダー学年となる2年生にとって、生徒会活動に目を向け、問題を見いだしたり、話合いを通して仲間の考えをまとめ、実践につなげたりしていく力が必要とされる。

生徒がこれまで経験してきた話合い活動の多くは、生徒会執行部等から提案された原案に対し、質問や意見を少し出して終わりという消極的なものである。これを打開するために、学級独自の議題を設け、1学期に2回、2学期に2回の学級会を実施してきた。徐々にではあるが、話合いの意義を理解し、全員が自分の考えを述べるできるようになってきた。しかし、自分の意見を表明することで満足してしまい、その先の議論が深まらないこと、自分の意見が少数派と分かると安易に多数派に妥協してしまい、簡単に多数決が成立してしまうことがまだ見られる。

そこで、理由や根拠を丁寧に交流させ、互いの考えや気持ちを共有し合い、少数派の考えや気持ちを取り入れ、多くの仲間が心から納得できる合意形成に取り組む必要がある。

（2） 題材設定の理由

生徒会活動は、学校における生活の充実・向上を目指すために、生徒によって自発的・自主的に行われる活動である。そして、その充実のためには生徒会リーダーだけではなく、全生徒の関心の高まりが不可欠であり、その基盤となるのは学級活動である。

本題材は、後期生徒会のリーダー学年として、新しい生徒会活動の柱を考えていくものである。

前期生徒会から後期生徒会へ活動が引き継がれるこの時期に、これまでの生徒会活動を振り返り、更に生徒会活動をよりよくしていくために何が必要か、生徒会活動を活性化させるためにどのような活動ができるのかを全員に考えさせたい。

生徒会執行部等からの提案に慣れている生徒にとって、自分たちで活動を考え提案していくことは、主体的な態度の育成につながるものと考えられる。特に生徒会役員選挙に多くの生徒が関わり、意欲に満ち溢れているこの時期に、全員でアイデアを出し合い、生徒会の未来を語る活動はとても意義があることである。学級で話し合ったことを全校に提案し、全校の取組にすることができれば、今後の活動への意欲や責任感が高まるだけでなく、生徒たちの自尊感情も高まり、多くの相乗効果が期待できる。

加えて、生徒会リーダーとして取り組む前に、より多くの人が意見を述べ合うこと、より多くの人が納得した決定をすることを学級の中で実践的・体験的に学習することで、今後の生徒会活動においても同様の活動を展開することが期待できる。

以上のように、学級活動を基盤として、生徒会活動を視野に入れた話合い活動を取り入れることによって、自主的・実践的な態度が身につくと考え本題材を設定した。ここでつけた力が、地域の復興や生徒の将来においても、必ず生きるものと信じている。

3 指導のねらい

- (1) 学級や生徒会活動の諸問題に、意欲的に取り組む自主的・実践的な態度を身につけさせる。
- (2) 後期生徒会活動の柱について、自分の意見を持ち、他者の意見や様々な視点から思考・判断させ、実践できる力を身につけさせる。
- (3) 学級や学校生活を充実・向上させていくための手立てを理解させる。

4 評価の観点と評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価規準	学級活動や生徒会活動の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	リーダー学年としての自覚を持ち、他の生徒の意見を尊重しながら、後期生徒会の柱となる活動を考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	後期生徒会の活動を充実させることの意義や学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

5 展開の過程

(1) 事前の活動と教師の指導

期日(曜)	活動の場	活動の主体	活動内容	指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿 (評価の観点)【評価方法】
9月13日 (金)	学級活動	学級	リーダーとフォロワーについて学習する。(生徒会役員選挙について)	・リーダー学年の一員として自覚をもたせながら選挙に臨む姿勢を考えさせる。 ◎リーダー学年の一員としての自覚を持ち、意欲的に生徒会活動に参画しようとしている。 (関心・意欲・態度)【記述】
9月8日 (月)～ 16日(火)	帰りの会	学級	これまでの生徒会活動を振り返る。	・行事や生活向上運動等これまでの生徒会活動を想起させ、活動を振り返らせる。 ◎よりよい活動にするためには何が必要か考えている。 (思考・判断・実践)【観察】
9月17日 (火)	帰りの会	学級	「理想の学校」「理想の学校に近づくための活動」についてアンケートを行う。	・後期生徒会のリーダー学年としての自覚をもたせる。 ◎生徒会活動に対して関心を持ち具体的活動を考え、アンケートに答えている。 (関心・意欲・態度)【記述】
9月26日 (金)	放課後	学級 執行部	学級会の話し合いの仕方を確認する。	

9月29日 (月)	学級活動	学級	後期生徒会活動の柱をグループで話し合い、掲示用ポスターを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの生徒会活動を基に、新たな活動の柱を様々な視点から考え、グループ討議を行わせる。 ◎自分の考えと比較しながら、周りの意見を聞き、よりよい生徒会活動が行われるように考え、判断している。 (思考・判断・実践)【観察・記述】
10月2日 (木)	放課後	学級 執行部	学級会の話し合いの仕方を確認する。	

(2) 本時のねらい

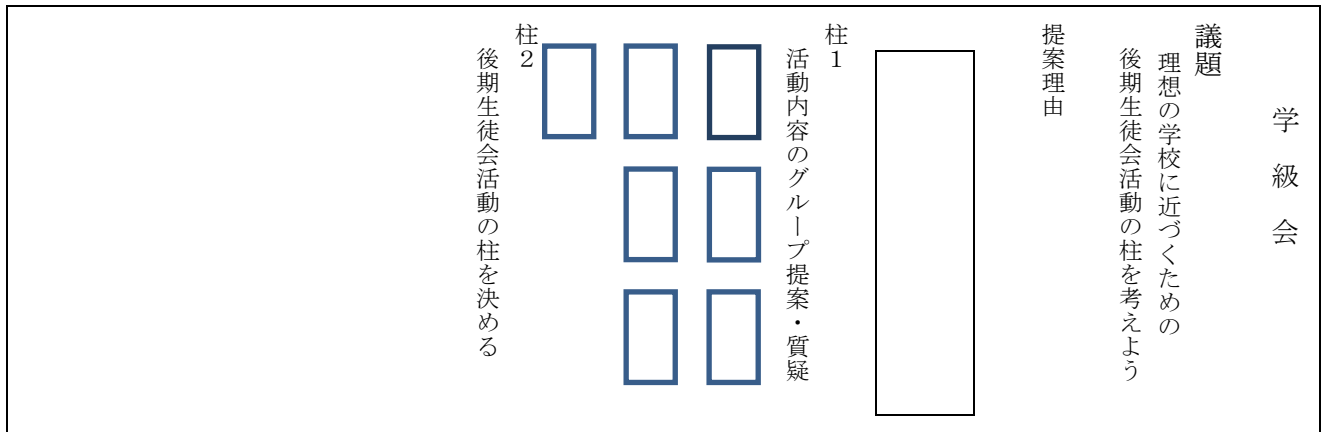
後期生徒会のリーダー学年として、生徒会活動の柱となる活動について、自分の考えと他者の考えを比較し、学校生活の充実・向上を目指すためには、どのような活動がよいのか思考・判断することができる。

(3) 本時の展開

活動内容	指導上の留意点・支援	資料等
1 はじめの言葉 2 議題と提案理由の確認 3 話し合いの目標と柱の確認 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に小グループで作成した、後期生徒会活動案等を黒板に掲示しておき、話し合いの心構えをつくる。 ○前回からの流れを踏まえ、今回の話し合いのねらいと方向性を説明するように助言しておく。 <p>議題：理想の学校に近づくために、後期生徒会の柱となる活動を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時のゴールと話し合いの進め方(柱)を確認させる。 柱1：活動内容のグループ提案を基に考える。 柱2：後期生徒会の活動の柱を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループポスター ・議題 ・提案理由 ・話し合いの柱
4 話し合い (1) 理想の学校に近づくための生徒会活動についてグループ毎にプレゼンする。 (2) (2Aとしての)後期生徒会にふさわしい活動を決定する。 (35分)	<p>※できるだけ議長を通して、以下の点について留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相手意識、目的意識をもたせ、発表させる。 ○疑問に思ったことを率直に発言するように促す。 ○明確な応答ができるように支援する。 ○各グループの提案に対して一括して質問を取らせる。 ○根拠や理由を明確に伝えさせ生徒の思いを交流させる。 ○これまでの生徒会活動を振り返り、意見が出されるように支援する ○考えた活動が実現可能なものなのか、様々な視点から考え、発言するように促す。 ○複数の意見をまとめて、新たな意見とすることも可能であることを助言する。 ○黒板記録が上手にまとめられるように支援する。 ○少数派の意見、気持ちを大切に扱い、納得のいく合意形成を行わせる。 ○周囲の考えをメモさせる。 	

5 話し合い結果の確認	<p>○本時の話し合いで決定したことを発表する。</p> <p>○本時の話し合い活動を通して気付いたことや考えたことなど、振り返りカードに記入するよう助言する。</p> <p>○何名かに発表させ、考えたことを共有させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【思考・判断・実践】</p> <p>◎自分の意見と他者の意見を比較し、よりよい生徒会活動が行われるように考えている。</p> </div> <p>○話し合いの中で良かった点にふれ、今後の実践意欲を高める。</p>	<p>・振り返りカード</p>
6 話し合いの振り返り		
7 先生から		
8 おわりの言葉		
(10分)		

(4) 板書計画



(5) 事後の活動と教師の指導

期日 (曜)	活動の場	活動の主体	活動内容	指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿 (評価の観点)【評価方法】
10月8日 (水)	生徒会行事	全校生徒	生徒会役員選挙	<ul style="list-style-type: none"> ・演説の内容について考えたことをまとめさせる。 ◎フォロワーの立場としてリーダーを支えるためには何が必要か考え、実践することができる。 (思考・判断・実践)【記述】
10月15日 (水)	学級活動	学級	学級組織改編	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に方針、決意を述べさせ、意見交換をさせる。 ◎活動方針・決意をもって、希望する役職に立候補できる。 (関心・意欲・態度)【観察】
10月24日 (金)	放課後	学年執行部	学級執行部会/学年委員会 学年総会に向け、議事の進め方等について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが円滑に進むように、審議内容を確認する。進行方法を助言する。

10月29日 (木)	学級活動	学年全体	学年総会 各学級から持ち寄った、後期生徒会活動の柱について話合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・後期生徒会のリーダーとして自覚をもたせ、話合いに参画させる。 ◎学年一人一人の意見を尊重し集団決定することができる。 (思考・判断・実践)【観察】
11月6日 (木)	学校生活	学年活動	学年(学級)で実践をプレスタートし、活動の不備な点を洗い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践の中で、不十分な点を指摘し、改善できるように助言する。 ◎決定事項の意義を理解し実践に移すことができる。 (思考・判断・実践)【観察】
11月20日 (木)	生徒会行事	全校生徒	生徒総会 後期生徒会活動の新たな活動の柱を提案し審議する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践の場面を予想しながら意見をだせるように助言する。 ◎全校生徒の意見を尊重し集団決定することができる。 (思考・判断・実践)【観察】
12月8日 (月)	学校生活	全校生徒	決定事項の実践に向け、取組を開始する。	<ul style="list-style-type: none"> ・決定内容を実践しているかを確認し、適宜助言を行う。 ◎学校生活の充実と向上をめざし自主的に活動に参画できる。 (思考・判断・実践)【観察】